

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

冬春キュウリにおける病害（うどんこ病、べと病、菌核病、灰色かび病）の発生状況と防除対策（技術情報第16号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので業務の参考としてご活用ください。
記

2月の巡回調査において、冬春キュウリでうどんこ病、べと病、灰色かび病、及び菌核病の発生が前年・平年に比べ早い時期から増加しています。
今後春先にかけて、例年よりも病害の発生量がさらに増加することが懸念されるため、ほ場内の発生に注意が必要です。

1 発生状況

- (1) 2月の巡回調査における冬春キュウリの病害は、うどんこ病で発病葉率19.7%（平年10.0%）で平年比多、べと病は発病葉率15.3%（平年2.7%）で平年比多、灰色かび病は発病株率1.3%（平年0.0%）で平年比やや多、菌核病は発病株率2.7%（平年0.0%）で平年比やや多の発生であった（図1～4）。
- (2) 防除員の報告では、べと病、菌核病で平年比やや多、うどんこ病、灰色かび病で平年並の発生であった。

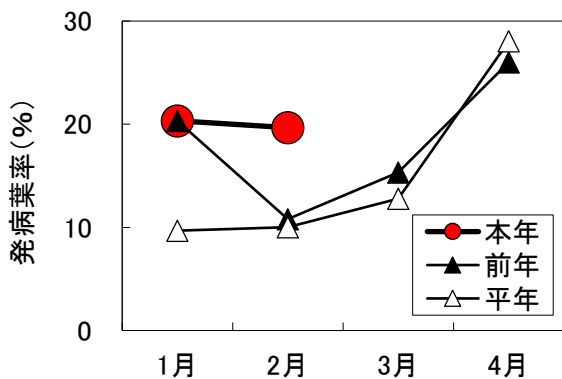


図1 うどんこ病の発病葉率の推移

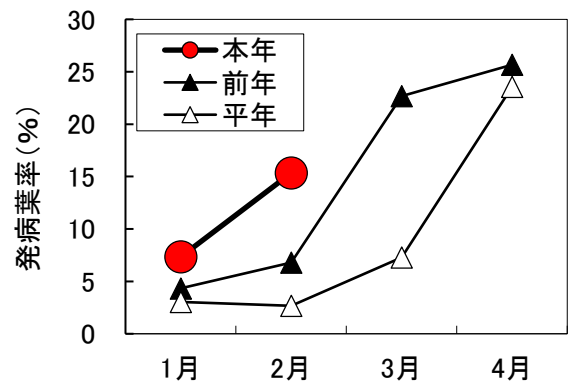


図2 べと病の発病葉率の推移

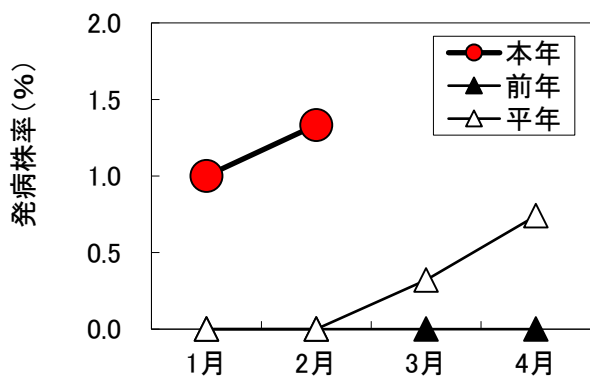


図3 灰色かび病の発病株率の推移

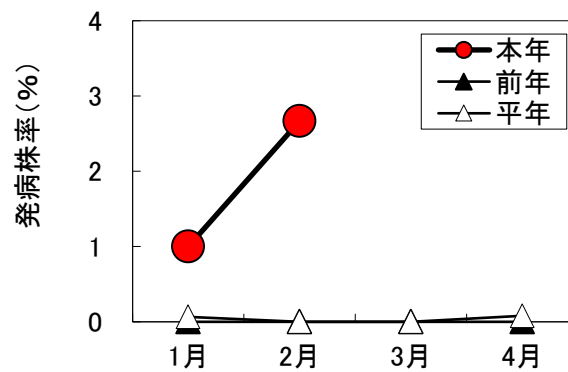


図4 菌核病の発病株率の推移

2 今後の発生予想

福岡管区気象台が2月24日に発表した九州北部地方1か月予報によると、気温は平年より高く、降雨量は平年よりやや少ないが、数日の周期で天候が変わる予想のため、病害にとって好適な温湿度条件が続くことが予想される。

3 防除対策等

- (1) 過繁茂を避け、通風採光を良くする。ハウス栽培では換気を図り、多湿を避ける。
- (2) 発病葉、発病果や被害残さは伝染源となるので、ほ場外に持ち出し処分する。
- (3) 病害によっては肥料切れや樹勢低下により発生が助長されるため、適正な肥培管理を行う。
- (4) 病害が多発してからの防除は困難となるため、予防防除を重点に行う。
- (5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 予察指導室 (病害虫防除所)
 担当：中井、中村 TEL : 096-248-6490